

## アオキ新品種 ‘湘南おりひめ’ ‘湘南ひこぼし’ の育成

原靖英・並河治<sup>1)</sup>・岡部誠<sup>2)</sup>・堀越禎一

### Breeding of the New Japanese Aucubas ‘Shonan Orihime’ and ‘Shonan Hikobosi’

Yasuhide HARA, Osamu NAMIKAWA<sup>1)</sup>, Makoto OKABE<sup>2)</sup>, Teiiti HORIKOSI

#### 摘 要

‘湘南おりひめ’は、1980年に‘細葉アオキ’と‘ホシヤドリ’の交配により育成された品種で、2004年9月に種苗法による品種登録申請を行った。葉身の形は長楕円形で、葉色は暗黄緑、浅黄の散り斑が入る。性は雌性で、4月上旬に雌花を咲かせる。果実は4月頃、濃橙赤で楕円形のものを1枝当り2.6個ほど付ける。

‘湘南ひこぼし’は、1985年に‘細葉アオキ’と‘龍福寺’の交配により育成された品種で、2004年9月に種苗法による品種登録申請を行った。葉身の形は長楕円形であり、葉表面の色は暗黄緑、浅黄の散り斑が入る。性は雄性で、3月下旬に雄花を咲かせる。

いずれの品種も、鑑賞樹として耐寒性、耐陰性に優れ、日陰地や屋内などでの利用が期待される。

キーワード：アオキ，育成，観賞樹，斑入り

#### Summary

‘Shonan Orihime’ is a new variety of Japanese Aucubas (*Aucuba japonica*), which was improved by hybridization of ‘Hosoba Aoki’ and ‘Hoshiyadori’. It has been applied for the registration for the Japanese Seeds and Seedlings Law in September 2004. Leaf blade is long, and leaf color is dark yellow green with light yellow spots. As its sex is female, female flowers bloom in the beginning of April. It bears about 2.6 fruits per a branch with the color of vivid yellowish red around April.

‘Shonan Hikoboshi’ is another new variety of Japanese Aucubas (*Aucuba japonica*), which was improved by the hybridization of ‘Hosoba Aoki’ and ‘Ryuhukuji’ in 1985. It has been registered for the Japanese Seeds and Seedlings Law in September 2004. Leaf blade is long oval, and leaf color is dark yellow green with light yellow spots. As its sex is male, male flowers bloom in the end of March.

Both varieties are resistant to cool and shaded environment. As ornamental tree, they are expected to be placed in shaded ground, or indoor rooms.

Key word :Japanese Aucubas, breeding, admiration tree, mottled

<sup>1)</sup>全農・営農技術センター，<sup>2)</sup>財団法人相模原市みどりの協会

## 緒言

神奈川県は、古くから植木の産地であり、ツゲ、カナメモチ、コニファー、ハナモモ、サルスベリなど常に新しいものを導入し、市場に供給してきた。しかし、近年、不況による消費量の減少、都市化による生産環境の悪化、高齢化による労働力不足などの多くの問題点を抱えており、県内の植木生産は停滞してきている。また、産地間競争も激しく、他産地より有利に販売するためには、新品種やオリジナル品種の導入は不可欠となってきた。このような状況の中、生産者の経営の安定化と生産の活性化を図るため、新規性を有し、高い市場性を持つ神奈川県オリジナル品種の育成に取り組んできている。

アオキは日本在来の常緑低木樹で、バラエティに富んだ斑入りの葉、鮮やかな赤い実は観賞性が高く、古くから庭木として親しまれている。また、耐寒性、耐陰性に優れることから、ビルの谷間の日陰地や屋内などで観葉植物的な利用も増加してきている。今回育成された品種は、交配を行ってからかなりの年月を経過しているが、葉の形、斑の入り形等に新規性がみられ、庭木や鉢物としての多くの利用が見込まれ、同じタイプの葉性で雌雄揃っていることから、セットでの販売が期待される有望品種である。このアオキ2品種について種苗法による登録申請を行ったので、これらの育成経過と品種特性について報告する。

## 育成経過

‘湘南おりひめ’は、1980年に‘細葉アオキ(緑葉)’に‘ホシヤドリ’を交配し、翌年結実した実生を播種した。共に発芽した個体のうち、樹勢、葉色、葉形に優れるものを選抜し、鉢上げを行った。その後、日差しの弱い樹下に仮植し、1995年にケヤキの樹下に定植を行った。定植後は慣行に従って栽培を行い、2003年3月～2004年5月に対照品種(‘龍福寺’、‘天の川’)と共に特

性調査を行った。その結果、葉の形や大きさ、葉色等で対照品種と明らかな区別性が認められたことから、2004年5月に育成を完了した。

‘湘南ひこぼし’は、1985年に‘細葉アオキ(緑葉)’に‘龍福寺’を交配し、翌年結実した実生を播種した。‘湘南おりひめ’同様、発芽した個体のうち、樹勢、葉色、葉形に優れるものを選抜し、1995年にケヤキの樹下に定植を行った。定植後は慣行に従って栽培を行い、2003年3月～2004年5月に‘湘南おりひめ’同様の対照品種と共に特性調査を行い、対照品種と明らかな区別性が認められたことから、2004年5月に育成を完了した。

## 品種特性

‘湘南おりひめ’は、樹形がやや開張性の低木(樹高約1m)である(第1図)。葉身の形は葉身長11.0cm、葉身幅3.1cmの長楕円形であり、葉縁の切れ込みは浅い。葉表面の色は暗黄緑(日本園芸植物標準色票カラーコード3509)、裏面の色は穏黄緑(同3514)で、浅黄(同2504)の散り斑が入る(第1表)。性は雌性で、4月上旬に1枝当たり12.6個の灰赤(同0419)で花径8.8mmの雌花を咲かせる(第2表)。果実は4月頃、濃橙赤(同0707)で楕円形(長さ1.5cm、幅1.0cm)のものを1枝当たり2.6個ほど付ける(第3表)。樹勢はやや弱く、成長は遅い。

‘湘南ひこぼし’は、樹形がやや開張性の低木(樹高約1.5m)である(第2図)。葉身の形は葉身長14.3cm、葉身幅3.7cmの長楕円形であり、葉縁の切れ込みは浅い。葉表面の色は暗黄緑(同3508)、裏面の色は穏黄緑(同3514)で、浅黄(同2504)の散り斑が入る(第1表)。斑は後ざえタイプで、出葉直後は斑が淡い。性は雄性で、3月下旬に1枝当たり85.6個の灰赤(同0419)で花径9.2mmの雄花を咲かせる(第2表)。

両品種共、耐寒性、耐陰性に優れており、落葉高木樹の下など半日陰地に適している。



第1図 '湘南おりひめ'



第2図 '湘南ひこぼし'

第1表 ‘湘南おりひめ’ および ‘湘南ひこぼし’ の葉の特性

品種名	葉身の形	葉身長(cm)	葉身幅(cm)	表面の色	斑のタイプ	斑の色
湘南おりひめ	長楕円形	11.0	3.1	暗黄緑(3509)	散り斑	浅黄(2504)
湘南ひこぼし	長楕円形	14.3	3.7	暗黄緑(3508)	散り斑	浅黄(2504)
龍福寺	楕円形	20.9	6.3	暗黄緑(3308)	散り斑	浅黄(2504)
天の川	楕円形	13.6	8.0	暗緑黄(3509)	散り斑	明緑黄(2905)

色の表現は日本園芸植物標準色票による。( )内はカラーチャートの番号。

第2表 ‘湘南おりひめ’ および ‘湘南ひこぼし’ の花の特性

品種名	雌雄	花径(mm)	花高(mm)	花色	1枝当り花数
湘南おりひめ	雌	8.8	6.0	赤褐(0710)	12.6
湘南ひこぼし	雄	9.2	3.3	灰赤(0419)	85.6
龍福寺	雄	10.7	3.4	赤褐(0710)	237.1
天の川	雌	7.2	5.6	暗赤褐(0119)	28.2

色の表現は日本園芸植物標準色票による。( )内はカラーチャートの番号。

第3表 ‘湘南おりひめ’ の実の特性

品種名	形状	長さ(cm)	径(cm)	実の色	1枝当り実数
湘南おりひめ	楕円形	1.5	1.0	濃橙赤(0707)	2.6
天の川	楕円形	1.1	0.6	濃橙赤(0707)	2.5

色の表現は日本園芸植物標準色票による。( )内はカラーチャートの番号。

## 今後の取組

アオキ新品種‘湘南おりひめ’‘湘南ひこぼし’は、斑が綺麗で、弱日照下にも強いことから、日照条件の良くない北側の庭地や建物の陰地、屋内などで様々な場所で、雌雄セットでの利用が見込まれる。また、成長が遅く、コンパクトな草姿作りが可能あることから、鉢物での利用も期待される。

アオキは、日本原産の常緑樹であり、古くから斑のきれいなものは、民家の庭等で鑑賞されてきたが、そのうち品種として名称のあるものは少なく、登録品種はほとんどない。今後、アオキの需要が増えるにつれて品種名で流通し、登録がある優良なものが求められてくると思われることから、今回登録申請を行ったアオキ2種は、その礎になると考えられる。

## 引用文献

- 林弥栄. 1985. 山溪カラー名鑑 日本の樹木 : 533  
財団法人広島市動植物園・公園協会. 2006. 平成17年度  
種苗特性分類調査報告書 : 3-13  
神奈川県植木生産組合連合会. 2002. 植木生産の手引き

